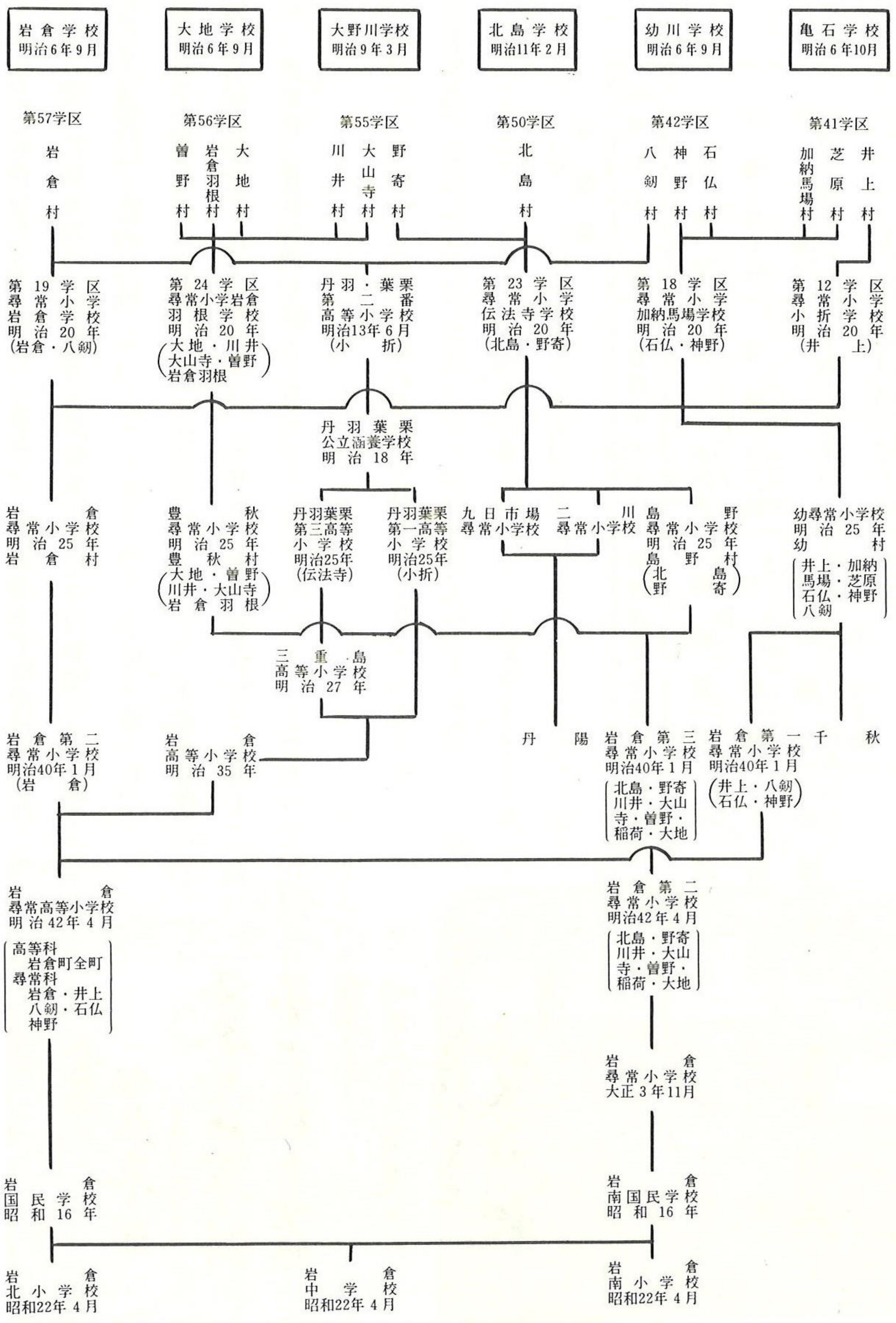
岩倉市民俗資料企画展

「学校のうつりかわり」

今回の企画展は、「学校のうつりかわり」と銘打って、むかし学校で使われていた教科書や道具、古写真を取り上げました。明治に学制が公布されて以来、市内の学校がどうようにうつりかわったのか、当時使用された展示品等で振り返りながら想像頂けたらと思います。

－学校の沿革－

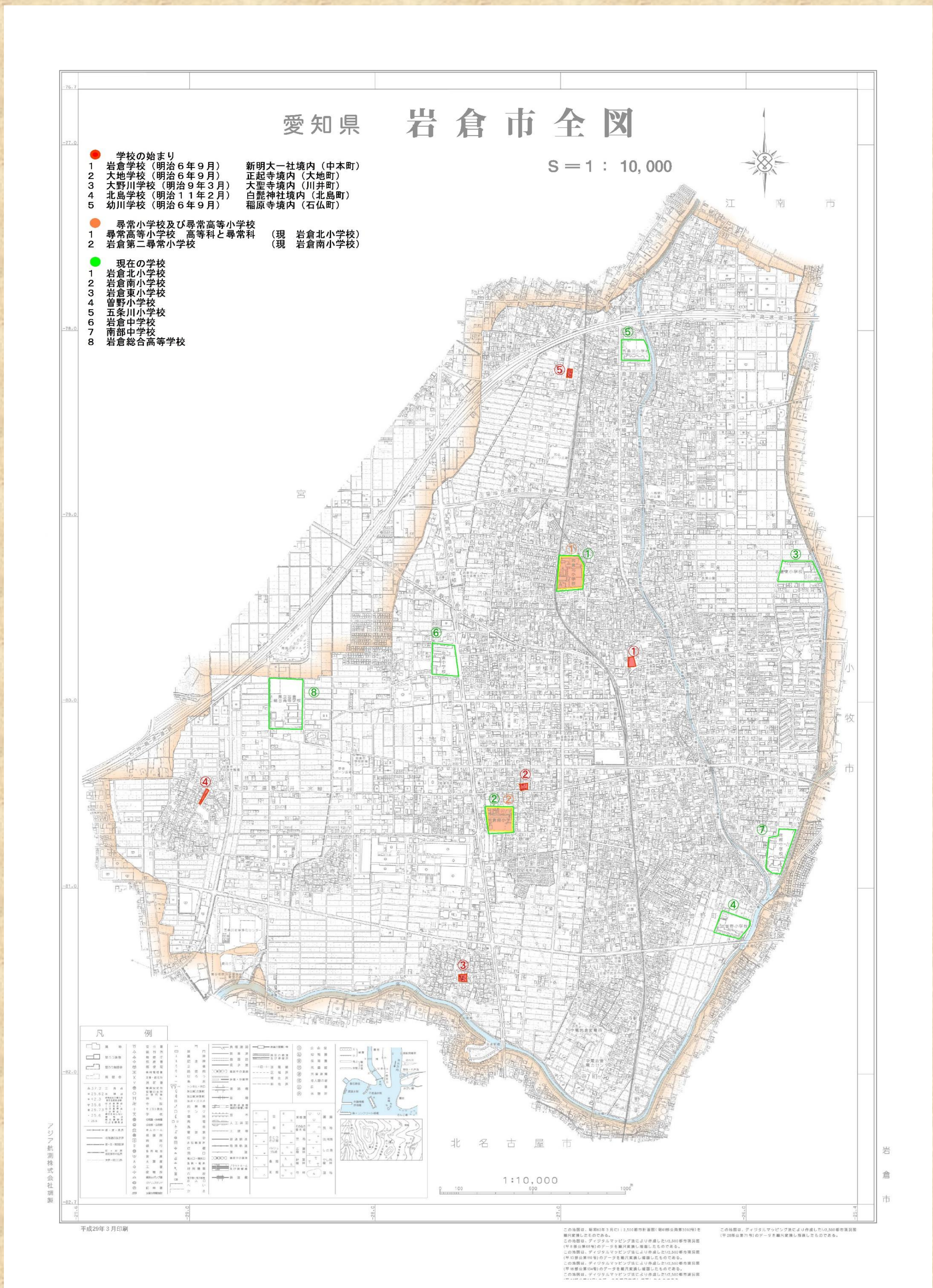
明治５年の学制公布以来、さまざまな変遷をへて、現在の現在の学校へと変わりました。ここでは、岩倉市での学校の始まりから、戦後現在につながる学校制度が導入されるまでの各学校の変遷を示しています。



学校沿革一覧表

ー学校の所在地ー

明治の最初期に設立された学校は、地区の寺や神社の境内を利用して建てられました。現在の岩倉北小学校へとつながる岩倉学校は神明大一社（中本町）、幼川学校は稲原寺（石仏町）に、岩倉南小学校へつながる大地学校は正起寺（大地町）、大野川学校は大聖寺（川井町）、北島学校は白髭神社（北島町）を敷地として設立されました。



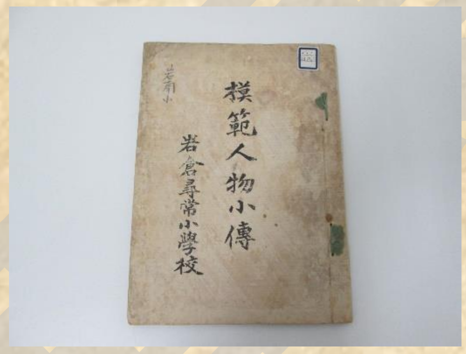
ー戦前の学校に関する品物ー

〇数取り機

　数学の授業で数字の移動を示すのに使われた。

〇模範人物小伝

地域の模範となる人物を織り上げ、教育の教材とした。



〇教科書

　学校が明治時代にできた時にいろいろな教科書が作られましたが、全国共通にするために国が作った教科書となった。

〇教育勅語

　文部省は修身教育においてその精神を徹底せしめ、第二次世界大戦終結まで教育の基本方針とされた。

〇机・椅子

学校で使われていた机と椅子。二人掛けとなっている。

〇謄写版

　ロウ紙をヤスリの上にのせて、鉄筆（テッピツ）で文字を書いて原紙を作って印刷を行った。

○卒業証書・精勤賞

昭和 14 年尋常小学校の頃の卒業証書と精勤賞
精勤賞の副賞として文書挟 1 個となっている。

○運動場新設記念大運動会絵葉書

岩倉尋常高等小学校（現在の岩倉北小学校）の運動場が新設されたことを
記念して行われた大運動会の絵葉書。

民俗資料企画展